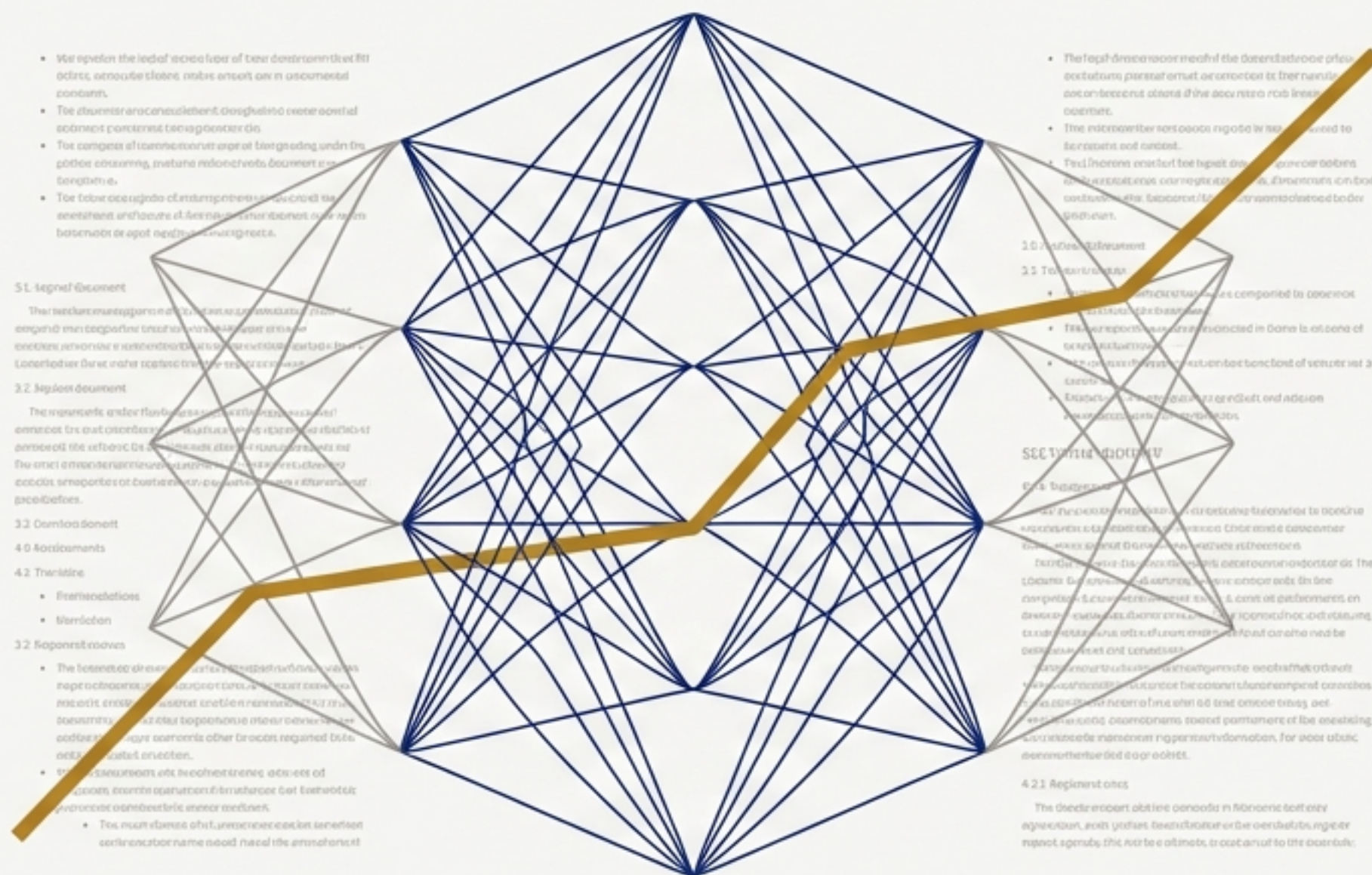


NTT、知財業務の変革を告げる一手：エンタープライズ向け「知財文書作成エージェント」徹底分析

国産LLM「tsuzumi 2」と堅牢なセキュリティを武器に、特許明細書作成の新たなワークフローを提示



NTTが法人向けに提供を開始した「知財文書作成エージェント」は、単なるAIツールではなく、業務プロセスに組み込まれた統合ソリューションである



発表

2025年6月19日、NTTドコモビジネスが法人向けに提供開始。金融・公共・製造業を初期ターゲットとする20種のAIエージェント群の第一弾。



目的

煩雑で属人化しがちな特許出願プロセスを自動化・効率化し、企業の生産性向上と「出願機会の損失」を防ぐ。



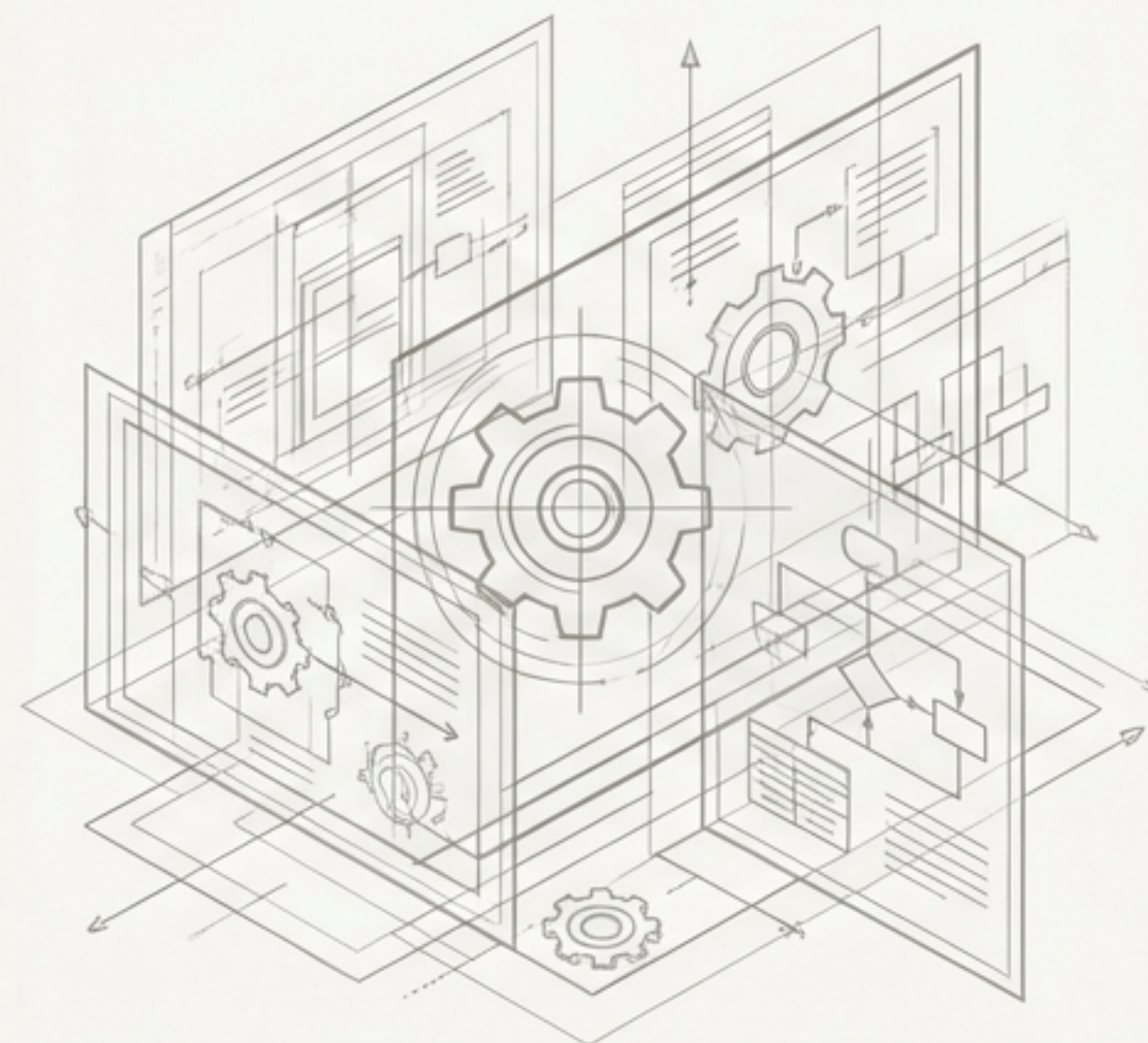
核心

「業界・業務特化」「人との協働」「セキュリティポリシーとの整合性」を重視した、実用的なアプローチ。

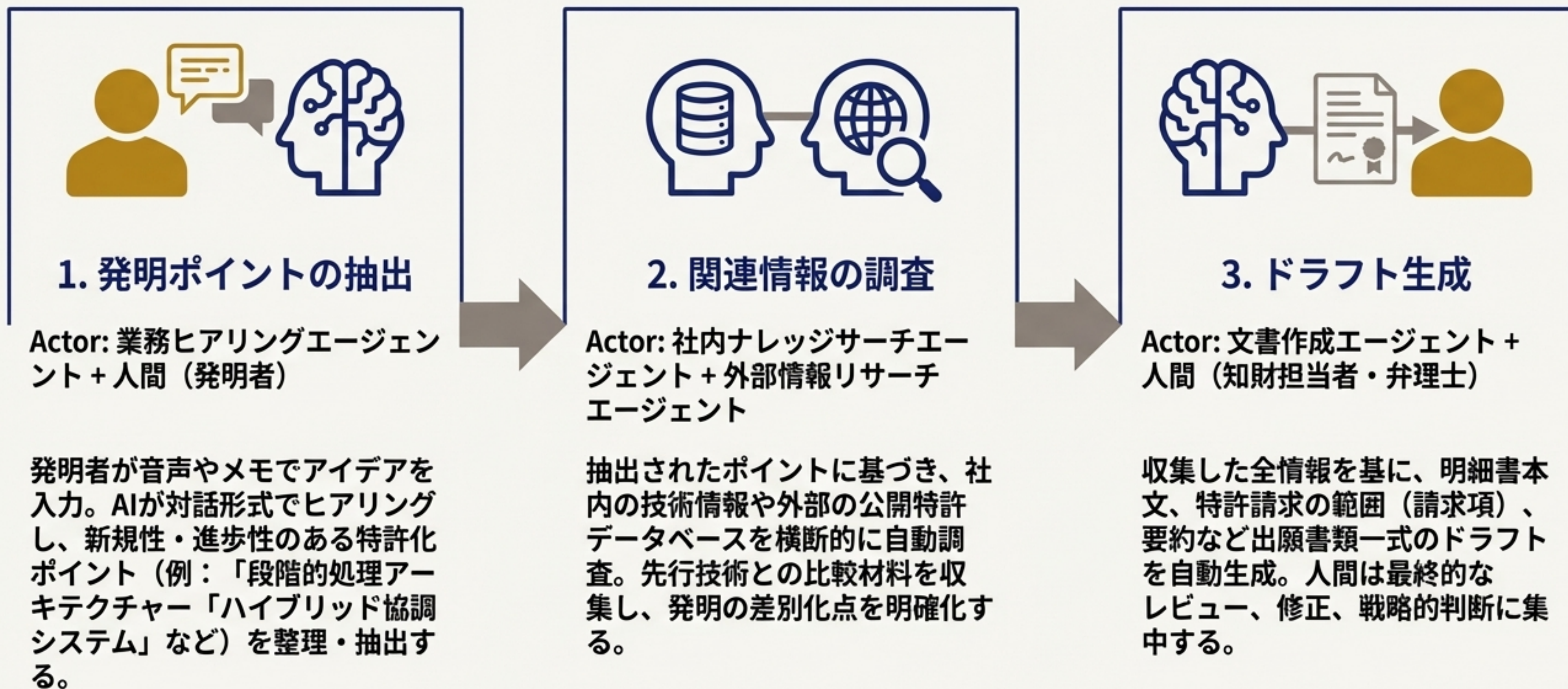


野心的なロードマップ

2026年にはAIエージェントを200種まで拡大する計画。



人間とAIが協働する、三段階の特許明細書作成ワークフロー



高品質な日本語文書を生成する、 純国産LLM「tsuzumi 2」が技術の中核を担う



- **純国産・日本語特化**

軽量ながら世界トップクラスの日本語処理性能。段落構造の保持や流暢な表現に優れる。

- **専門知識の組み込み**

特許特有の言い回しやクレーム記述ルールを学習済み。汎用LLMを60%以上上回る精度を謳う。

- **ハルシネーション抑制**

膨大な技術データを統合し、AIによる事実誤りを抑制する高度な仕組みを実装。

未公開発明という最高機密情報を守る、 エンタープライズグレードのセキュリティ

クローズドな環境

NTTが提供する閉域網クラウドや
オンプレミス環境でシステムを稼働。
入力データを外部に渡さない。

顧客データ
(機密情報)

NTTセキュア基盤
(閉域網・オンプレミス)

AI エージェント
(tsuzumi 2 搭載)

学習への再利用を禁止

顧客が入力した機密情報が、
AIモデルの再学習に利用される
リスクを完全に排除。

外部インターネット /
他のAIモデル

企業のポリシーと整合

アクセス制御やログ管理機能を
備え、各社の厳格なセキュリティ
ポリシーに準拠した環境を構築。

信頼性の裏付け

通信キャリアとしてのNTTの
高いセキュリティ基盤が
サービスの信頼性を担保。

煩雑なドラフト作成から解放され、知財担当者はより戦略的な業務へシフトする

Primary Benefit: 大幅な時間・工数削減

従来は数日～数週間を要した明細書作成が、AIの支援で飛躍的に効率化。NTTは「出願機会の損失」を防ぎ、出願件数増加による知財ポートフォリオ拡大を可能にすると主張。

Reference Point: 競合ツールでは、発明説明文の入力から約3分でドラフト（要約、請求項、明細書）を出力した事例も報告されている。

Secondary Benefit: 業務の高度化

Before:



知財部員や弁理士がドラフト作成のルーチン作業に忙殺される。

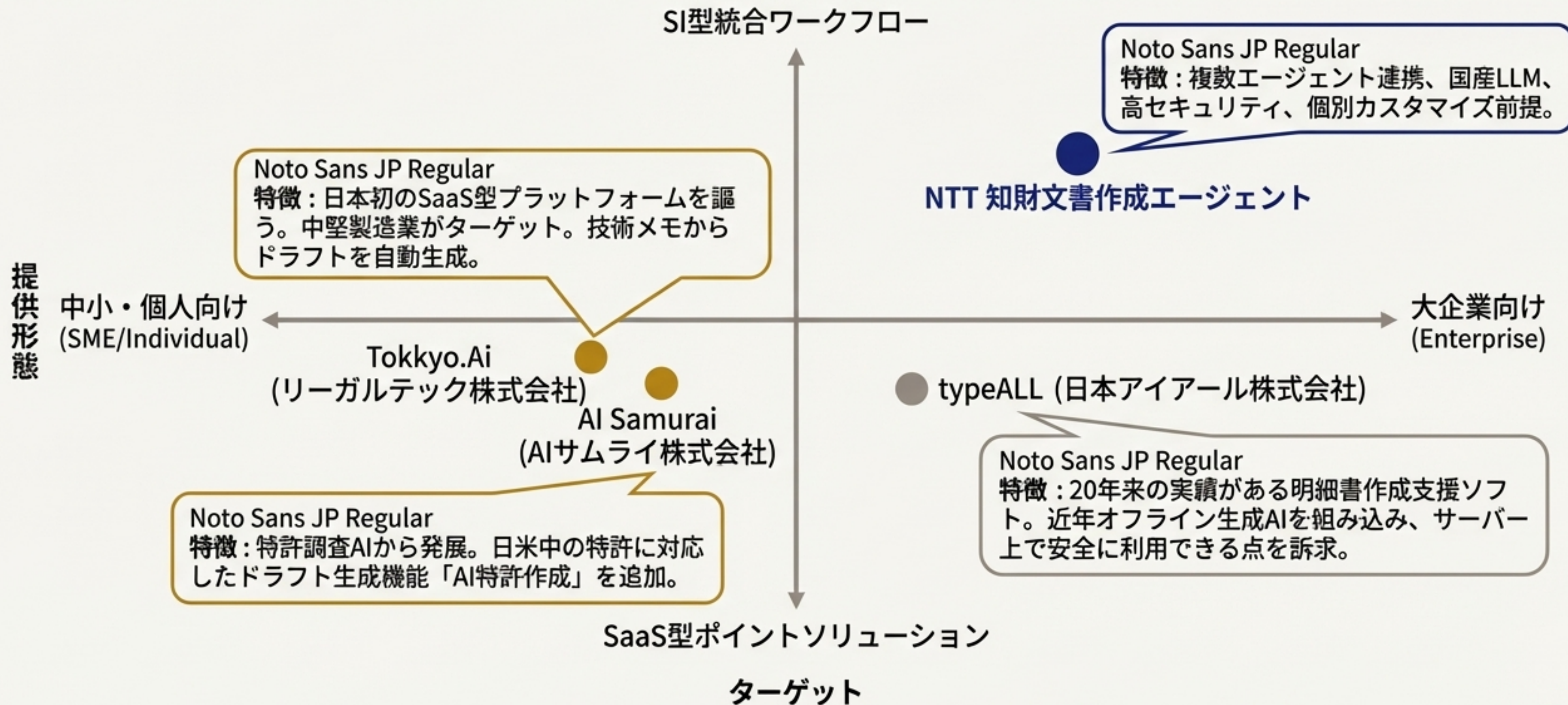
After:



AIが作成した質の高い「たたき台」を基に、修正・改善や戦略判断に注力。発明発掘やブランド保護など、より付加価値の高い上流業務に時間を配分できる。

NTTは「生成AIは魔法の杖ではなく、人間や他のツールとの適切な連携設計が重要」と強調。
AIはあくまで人間の能力を拡張する存在と位置付けている。

国内特許AI市場におけるNTTのポジショニング： 包括的・エンタープライズ向けソリューション



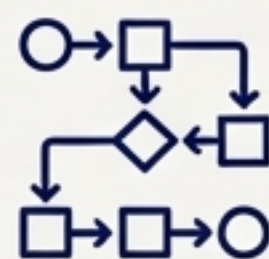
料金体系は個別見積もりを基本とし、各社の業務仕様に合わせたカスタマイズ提供が前提

公式な料金プラン



2025年6月時点では公開されていない。
「営業担当までお問い合わせください」とのみ案内。

提供形態



ウェブで即契約する一般的なSaaSではなく、SI型に近い提案ベースのサービス。
企業の要件ヒアリング → 最適なエージェント構成を提案 → カスタマイズ → 導入。

価格変動要因



- 利用するAIエージェントの数と種類
- 導入規模（ユーザー数）
- 提供環境（閉域クラウドかオンプレミスか）
- カスタマイズの度合い

市場での位置付け



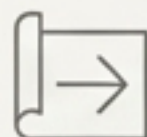
汎用SaaSツールと比較して、コンサルティング費用等を含む高付加価値・高価格帯のソリューションと想定される。
競合のエンタープライズ版は月額数十万円規模との推測もある。

知財業務を起点に、あらゆる専門業務のDXを牽引する NTTのAIエージェント戦略

NTT's Vision

知財文書作成エージェントは、NTTが描く壮大なロードマップの第一歩。

2026年までに200種のAIエージェントを展開し、あらゆる業界の高度専門業務にAIを浸透させる計画。



20 Agents
(2025)



200 Agents
(2026)



市場の期待と課題

期待:「信頼性・統合力のNTT」として、国内知財業務DXの本命ソリューションとなることへの期待は大きい。

今後の焦点: 複数の製造業でPoCが進行中。今後公開されるであろう成功事例と、具体的な費用対効果が普及の鍵を握る。

Final Takeaway: NTTの参入は、単一のツール登場に留まらず、大企業が安心して導入できるAIワークフローの選択肢が生まれたことを意味し、日本の知財業界におけるAI活用の新たな時代の幕開けを象徴している。